

# 伝 六孫王五輪塔 (大宇陀石清水)

ろくそんおうごりんとう



大宇陀岩清水の東部、栖光寺跡に残るこの五輪塔は、清和天皇の孫で、源姓を賜って清和源氏の祖となつた六孫王経基の墓と伝えられています。花崗岩製の空輪、火輪、水輪が残っており、室町時代初頭のものと考えられています。現在は所在が不明となつている風輪と地輪とあわせると五輪塔の本来の高さは、4.3m前後と推定されています。この大きさは奈良県最大級のものであり、中世のものとしては、日本屈指の巨大な五輪塔となります。これまで「宇陀再発見ツアー」や「歴史探案ウォーク」などで多くの方々がこのを訪れています。

■平成31年3月、岩清水の「六孫王五輪塔を保存する会」によって五輪塔の説明板が作成されました(観光施設整備事業費補助金交付事業)。この会では草刈りなどの環境整備を通して地域の文化資源のPR、地域の活性化に努めています。

- ▶五輪塔の北側にある六柱(むつはしら)神社には、6柱の神様を祀っています。
- ・天兒屋根命 ・伊弉諾命 ・伊弉冉命
  - ・天照大神 ・加具土神 ・他一座



## 手話言語と障害者 コミュニケーション条例成立

市は4月1日に、言語としての手話の普及や手話を利用しやすい環境づくりを進める「手話言語条例」と、障がいの特性に応じた意思疎通手段が利用しやすい環境を整える「障害者コミュニケーション条例」が施行されました。誰もが分け隔てられることなく暮らしやすいまちづくりを目指す2つの条例のもと、障がいのある人もない人もお互いの個性を尊重し、理解するための方法を一緒に考えていきましょう。

